

沖縄総合事務局 広報誌／第 358 号

Muribushi

群星
【むりぶし】

3月★4月号 2015年
隔月発行
March
★
April

対談 沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備

対談者 琉球大学 名誉教授・文学博士 高良 倉吉 内閣府 沖縄総合事務局 次長 尾澤 卓思

特集 平成27年度 内閣府 沖縄担当部局予算(案)について



表紙写真

伊良部大橋 (宮古島市)

平成27年1月31日に、要請活動から40年間の歳月を経て宮古島と伊良部島を結ぶ伊良部大橋が開通しました。兩岸距離4,310mは通行料金を徴収しない橋としては国内最長であり、そのうち橋梁区間長3,540mはさんごのしまは3540の語呂になっています。

伊良部大橋により生活環境向上、観光促進、農業用水供給などが期待されています。皆さんも一度、伊良部大橋からの青い海の絶景を訪れてはいかがでしょうか。

写真提供
宮古伊良部農業水利事業所
松岡 徹

Muribushi 3月★4月号 2015年 CONTENTS

群星
[むりぶし]

01 内閣府だより 沖縄ナイト in 東京 / 伊良部大橋開通式典

02 対談 沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備

06 特集 平成27年度 内閣府 沖縄担当部局予算(案)について

08 仕事窓 1 製薬・医療関連企業による「沖縄力発見ツアー2014」 総務部

09 2 しまのゆんたく in 伊平屋 総務部

10 3 管内経済情勢報告(平成27年1月) 財務部

12 4 輝き女性塾 経済産業部

13 5 沖縄の観光振興に貢献する旅客船ターミナルの整備 開発建設部

14 なつゆい 美味しい沖縄 ～沖縄食材を食べ尽くす!～ 栄養の宝庫「牛乳」 農林水産部

16 局 黒糖づくり実演・パネル展 農林水産部
・沖縄の養豚、ブランド豚についてもっと知ろう! 農林水産部

17 の 食料・農業・農村政策審議会 企画部会 地方意見交換会(沖縄ブロック) 農林水産部
・薬用作物に係る生産者及び実需者等情報交換会 農林水産部
・産総研 本格研究ワークショップin沖縄 経済産業部

18 動 地域活性化セミナー 経済産業部
・道の駅「ぎのざ」誕生 開発建設部

19 道 車両移動の道路啓開訓練 開発建設部
・沖縄風景街道南北交流会 開発建設部

20 き 障壁フリーネットワーク会議が国土交通大臣表彰を受賞 運輸部
・船員最賃引き上げ 運輸部

21 お知らせ 「独占禁止法教室」学生向け ～出前授業～ 総務部

本誌掲載の論文等の意見は、筆者の個人的見解であることをお断りします。

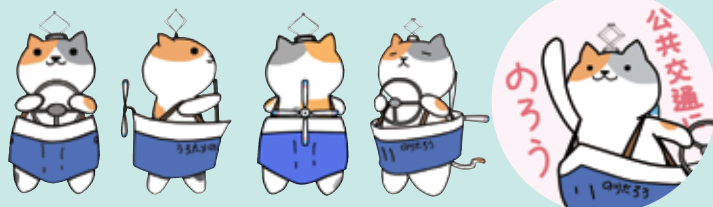
うんゆの「豆知識」

6

ゆるキャラ『のりたろう』を知ってますか?

『のりたろう』は公共交通の利用促進を目的として、国土交通省公共交通政策部で誕生したゆるキャラのことです。公共交通機関が好きなものの、猫であることを理由に各交通機関の採用を拒否され、やり場のない情熱から、自らが新たなハイブリッド公共交通機関になろうとしこのようなスタイルになりました。頭には電車のパンタグラフ、車のハンドルを握り、船のズボンをはいて、日夜せっせと公共交通利用促進に頑張っています。

バスの輸送人員は全国的に減少傾向にあります。沖縄県では『わった～バス党』による広報活動や、国・県・その他関係者でバスの利用を促進する取り組みを展開している中、平成25年度はバス輸送人員が久しぶりに増加しました。この流れを止めることなく、みんなで公共交通機関に乗ってみませんか。



内閣府だより

沖縄ナイト in 東京

平成27年1月28日、毎年恒例の「沖縄ナイトin東京」が開催されました。（主催：沖縄県及び財団法人沖縄観光コンベンションビューロー）

当日は、国会議員や県関係者、観光物産関連の方々が多数招待され、出席した平内閣府副大臣が来賓挨拶を行いました。

また、会場内では沖縄特産品の紹介や沖縄ミュージックライブのパフォーマンスも行われ、訪れた方々を楽しませていました。



ステージ上で挨拶する
平副大臣

伊良部大橋開通式典

平成27年1月31日、伊良部島と宮古島とを結ぶ伊良部大橋が開通し、地元の熱烈な歓迎ムードの中、式典が執り行われました。

松本内閣府大臣政務官が来賓として出席し、「約40年の歳月を経て、開通式が挙行される運びとなったことは、誠に感慨深く、関係の皆様の御尽力並びに地域の皆様の御理解及び御協力に対し深く敬意を表する」と祝辞を述べました。

沖縄県が整備した全長3,540メートルの伊良部大橋は、通行料無料の道路橋としては国内最長で、宮古圏域の振興に大いに貢献することが期待されています。



伊良部大橋全景



祝辞を述べる松本大臣政務官



伊良部大橋の開通を祝う島民の方々



テープカット

沖縄における観光客1000万人時代の インフラ整備

対談者 琉球大学 名誉教授・文学博士 高良 倉吉
内閣府沖縄総合事務局 次長 尾澤 卓思

沖縄県では、観光を県経済のリーディング産業と位置づけて、平成33年に観光客1000万（うち国外客200万人）の達成に向け、観光振興に力を入れているところ。沖縄総合事務局開発建設部では、「沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備」を提唱しています。沖縄観光振興に貢献するインフラ整備を六つの分野のシナリオで、観光の観点から横串を刺した形で整理し、インフラの総合力の重要性をわかりやすくとりまとめ、公表しています。

「沖縄観光とインフラ整備」について、首里城等の委員としてインフラ整備に携わってこられた琉球大学名誉教授の高良先生と尾澤沖縄総合事務局次長との対談を行いました。

首里城復元の合言葉

○尾澤 首里城の復元は、琉球の一番大事な心の部分、魂の復元と思うのです。復元に向けたこだわりについて、まずお話しをいただきたいと思っています。

○高良 首里城の復元は長い年月をかけて、総合事務局中心に歴史や建築の専門家など様々な方が連携して「琉球国のシンボルを蘇らせる」見事なプロジェクトです。戦争で失われた琉球王国の中心であり、象徴的な存在である首里城の歴史や文化を含めた復元です。従って当然クオリティの高い物で、時代考証をして様々な意見を加えて、後世の批判に耐えられる内容の復元を目指すのが合言葉です。このために様々な資料を検討し、様々な海外調査、事例調査もしましたし、そ

ういう点では恐ろしく手間暇をかけたプロジェクトだったと思います。

戦争で破壊された首里城ではなく、現役だった時代の首里城を復元する、それがテーマでした。目標は非常に高かったです。そのために首里城に関する様々なデータ等を収集し、まさに本格的な首里城研究なしには達成出来ないことでした。

観光施設としての首里城

○高良 首里城正殿は徹底的に細部にこだわりました。しかし、そこを訪れる方の中には、障害をお持ちの方もいらっしゃると思います。当然往時の首里城はバリアフリーではありませんから、そういった方々のためにどうするか、かなり議論になりました。バリアフリーにするとアレンジすることになるからです。でも、我々としても最終的にはバリアフリーにすべきだと言うことで、裏の方の壁を切って車いすで上がれるようにしました。

また、安心安全についても議論しました。一つの例を挙げますと北殿の北側に結構高い城壁があつて、そこは様々な土木関係調査の成果を見ても、非常に脆弱な場所なんです。王国時代の記録をみてもしばしば地震で崩れていました。最終的にそこは内側に擁壁を作つて安全対策を施して往時と同じような位置に城壁を積んで立ち上げてある。そういう工夫もしてあります。

○尾澤 そういう意味ではまさしく施設と観光の融合。それを繋いでいるのが、現代の技術であつて、現代の技術を

うまく使うことによって両方の目的を達成できるようにしたということですね。

本物の展示と情報発信

○尾澤 本物の良さをどう観光客の皆さんに伝えていけるか、本物を伝える工夫とか、これだけ違うという伝え方はあります。

○高良 様々な立場の人たちが知恵を出し合つて非常に良い形で推進されたプロジェクトですので、成果を来園者に理解していただくべく、解説を多くしています。戦争で破壊され復元された施設にこれだけ豊富な解説は本土には無いと思います。結構あちらこちらに解説があります。何しろ戦争で失われて相当な間隔をおいて復元されたもので、これは何という建物でどういった用途の建物であつたかを解説しています。解説計画もかなりしっかりとありますが、まだまだ不十分だと言う意見もあります。

首里城にはアンケート等による調査データがあります。それを見ると開園当初一番多かったのは、映画のオープンセットのようで、「奥行きがない」、「生活をしていて人間が感じられない」というものでした。奥行きがないことについては、一部開園した1992年以降次々と新しい建物を復元していますから、確実に充実していると思います。昨年は黄金御殿が復元され、まだまだ整備する計画はあります。

また、生活感については、首里城で行われたイベントを再現しています。城内の聖地を巡拝する「百人御物参り（もも



琉球大学 名誉教授・文学博士 高良 倉吉

「そのまわり」を再現したり、定期的に芸能を披露してみたりと、いろんなことをやっていますが、まだまだ発展途上だと思っています。今後どういうことをしていけば、首里城に生活の匂いがするのかわという課題は残ります。

個人的には、例えば県民のグループでお茶会や芸能披露など、首里城の施設を使って自分たちの日常の活動のなかで生かせるような空間につなげられないかと思っています。王国時代の衣装を着た人たちだけがいるのではなくて、現在の県民が利用することも今後重要ではないかと思っています。

○尾澤 情報発信としては、現代の様々な技術を活かした方法があると思いますが、そのあたりはお考えですか。

○高良 I-Tを使ったアピールの仕方があります。首里城のイベントを動画で見ることが出来ます。構想段階ですが、かつて首里城の王の家来達が被った「ハチ

マチ」の一番良い物がドイツベルリンの博物館にあります。これを動画上やバーチャル等で若い人に受けるような見せ方もこれから研究していく必要があるでしょうね。首里城でかつて使われていた物は、戦争で失われたり、海外、県外に分散したりしています。例えば徳川美術館に重要文化財級の琉球漆器があります。そういった物を持ち寄ってデジタルミュージアムのような形で今後構築していくことも大事な仕事だと思っています。首里城として実感できる物と、バーチャルで見られる物と様々な発信の仕方があるだろうと思います。

○尾澤 時代にあった発信の仕方ですね。本物を伝えるときに、その時代にあった方法を使って、いろんな方に理解してもらうことは大事なことでと思います。先生がおっしゃったように、情報は、その時その時の出し方をうまく組み合わせることで出ていくことも有効です。また、現代の技術をうまく取り入れて、本物でありながら、今の時代でカバーしなくてはいけないことをうまくカバーしていることがあります。これはその時代における復元の一つの道筋をつけられたと言え、本物の残し方に先鞭をつけられたんだと思います。

戦争と復元

○高良 首里城の復元プロジェクトは周知のアジアをみたら先進的な事例だと思っています。アジア各地で戦争があり、歴史文化を代表する建造物が被害に遭っている。失った物にこれだけ力を入れて、

しっかりとした体制で復元整備した事例は、先進事例となると思います。これを整理して周りのアジアに発信しようと議論したこともあるのです。

○尾澤 今日の話聞いて、やはり戦争という要素が入っているところは、若干抜けているですね。戦争で全て破壊され、それ乗り越えて、更に昔の本物を復元してきた、このコンセプトをいかにうまく観光客にお伝えするか、ここが非常に大事なところですが、うまく伝えられるかという事です。

○高良 当事者としてそこをもっと理解してほしい。その魅力を感じてほしい。その辺のアナウンスというか説明がまだ不十分で伝わって無いかもしれないですね。

○尾澤 平和学習がひめゆりなどの戦跡だけでなく、首里城もそれを物語っているということをうまく出せば良いと思います。沖縄の観光にはいろんな面があつて、ビーチでリゾートだけではなく、平和学習もあり、さらに歴史の中で戦争が様々な形で影響を及ぼしている。戦争ってどういうもののなのだろうかということも、考える部分があります。首里城は、歴史、文化さらには歴史の中でも近代の歴史の中で起こったことを併せて勉強できるという、すごく良い施設です。課題はその伝え方ですね。伝え方を我々も考えなければならぬと思います。

県立博物館との棲み分け

○尾澤 県立博物館では首里城の話が

無くて、首里城一つに集約されています。観光客の方から見ているような場所で発信があった方が良いのではないかと思います。

○高良 私は県立博物館・美術館展示構想会のメンバーでもありまして、そのとき議論になりました。最終的な結論は、県立博物館の常設展示という、沖縄の古い時代から現代まで歴史を語る中で、首里城の展示コーナーを作るのではなくて首里城を中心に展開した、かつての歴史の流れを県立博物館で説明し、実際の舞台となった首里城については見に行ってくれと、そういう棲み分けのなもを行い、現在の形になりました。ただ、空港、県立博物館などでは、首里城に対するインフォメーションやアナウンスを高める課題があります。逆に首里城では他のグスクに関心を持つような取り組みをどうするべきか、という課題もあります。5つのグスクが世界遺産になっていますが、首里城にいくと他の4つのグスクについても魅力を感じられる、そういった工夫も今後必要でしょうね。

○尾澤 そういう発信のできる場所が必要ですね。今、忠実に復元すればするほど、後からの話は入らないですね。そこをどうやってうまく入れて、他にもつながるような整備をしていくかっていうことは難しいことです。

○高良 そこですね。いろんなことを伝えたいけれど、そのスペースがない。確保しようとして無理をすると往時の首里城ではないものになってしまう、一種のジレンマでもあります。

首里のまちづくり

○高良 首里城公園は18haあり、そこに世界遺産が首里城と園比屋武御獄と玉陵があります。今公園の中で県整備の部分に中城御殿の復元整備があつて、さらに将来的に、北側の円覚寺や松崎馬場という昔の道路を整備して、旧博物館の跡地を整備する。そうすると一種の城下町の整備ができます。

○尾澤 もう少し首里の町作りを考えたいと思います。というのは首里城の見学だけだと短い滞在時間となります。朝と夕方に来られることが多くて一杯になります。途中中だるみの時間があるんですね。その時間をうまく使って来園者を増やすために、町をもう少し見ていただいて、例えば半日首里で時間をとっていただければ、そういう町作りをうまくできないか。首里の町そのものに昔の琉球の魂が感じられるような町作りが出来ないのかなと思います。

○高良 これがこれからの大きな課題だと思えますよ。首里城の似合う町、次長おっしゃるように滞在して、長い時間過ごせるような場所、さらに所々にスポット的に紅型を作ってみたり、泡盛の工場があったり、昔のお菓子を出してみたりと琉球的な輝き、雰囲気を持つ町。戦争で破壊される前の首里の写真を見てみると、首里城を中心とした見事な城下町となっています。今首里城の周りが連携できるような町並みが無いのです。時間をかけながら整

備していく必要がありますね。

観光客100万人時代のインフラ整備

○尾澤 観光客100万人を実現するために必要なインフラ整備や、これを実現するための重要な視点についてご意見をお聞かせいただきたいと思います。

○高良 観光インフラ整備について提唱されていますが、二つ申し上げたい事がございます。一つは環境保全・再生の問題です。例を挙げますと、慶佐次川ではカヤックで遡行してマングローブを楽しむという本土には無い観光スポットで先端的なことを行っています。しかも地域の農家や漁業者と連携して、かなり好評です。ところが赤土が流れてきて、川が浅くなってカヤックが遡れない状況が出てきています。ただ、生態学や自然の専門家に聞くと、赤土が入ってきてそれなりの環境が出来て、そこでまた動植物が環境にあつた生き方をしている。簡単に土砂を浚えば良いわけではないようです。問題は慶佐次川に象徴されるように、観光資源の環境の問題において、市町村・県・国が知恵を出し合つて、それぞれの立場で今後のふさわしい保全や再生の仕方を考えなければならぬことです。それが道路や滑走路にはない観光インフラとして重要な資源の問題、次長の提言でいえば観光資源あるいはそういういった観光地を抱える地域の支援にあたります。こうした問題は国・県・市町村という枠組みを超えて共通の課題として時間をかけて解決していく必

要があります。

基地返還による跡地の利用

○高良 もう一つは、一昨年の4月に日米で合意された、嘉手納基地より以南の米軍基地や施設の統合返還に伴い、観光という強い切り口から議論していく必要があると思います。これは、20年、30年という長期にかけて取り組むという合意がなされていますが、沖縄の中心的な場所になるため、重要なのです。ここでは、例えば将来的に滞在型、短期滞在する観光客も含め観光客を対象とした医療の様々なサービスなどが考えられます。それを含めて、観光を絡めた強い魅力的な跡地利用のあり方を、今後は、観光分野からもっと提案力を高めていく必要があると感じています。

○尾澤 まとまった跡地が出てくると、今の傾向でいくとすぐ商業施設とか、同じような物を持ちたがるので、もう少し全体を広い目で見て工夫が必要だと思います。実は今回提言をまとめたときの最初に書きました観光資源、沖縄の観光資源をもっと磨く必要があると思います。観光客100万人に向けてUSJやMICE等、いわゆる外から持ってくるカンフル剤みたいなものですね、こうしたエンターテイメント系のものだけではなく、沖縄の本来持っているものを活かした観光資源、これを磨く必要があるのではないかと思います。今の風潮として若干議論が抜けています。基本的に観光資源はインフラが関わっています。これは我々が言わない限り、実は誰も言わないので

はないかと思いました。我々が言わないとエンターテイメントのみになり、更にそのエンターテイメントを支えるための観光インフラというこういう物の見方しなくなります。観光資源としてのインフラ、これが大事なのです。

○高良 これだけ基地の加重負担が県民から言われ続けていて、やっと日米政府で将来的に計画的に返還しましょうとなっている訳ですから、この機会をうまく捉えて返還された跡地をどう活用するかが、沖縄の将来を決めると思っています。中南部都市圏の軸にある場所ですから、まさに長期的な沖縄を見たときの投資となります。おっしゃっているように、お客さんを引っ張ってくるエンターテイメント系ではない、それも一つあってもいいのですが、少子高齢化時代の、例えばシルバー達が滞在しても面白いような町やハワイのように一週間なり一ヶ月滞在出来る町になればよいですね。そこに居て楽しく、独自性、魅力がわかる、ある期間滞在して、生活者としてのムードが味わえる、そのようなものも織り込んだ形で跡地利用を考えないといけないと思います。まさに、おっしゃっているように沖縄がもっている、原石をどうやって磨いていくかだと思いますね。

沖縄らしさを考える

○尾澤 沖縄で暮らしてみることの魅力を出さないと滞在型の観光はできないと思います。普段と違う、リゾート的な体験も大事ですが、気候も食事もうな

かで、ここで暮らしてみることが、居心地が良く、幸せという満足度が高い、心の豊かさを感じられる場所みたいなことを考える必要があると思います。本土と同じようになるのではなく、沖縄らしさを、もう一度この100万人をきっかけに考えることが必要だと思います。

○高良 その象徴的なことは、例えば慶良間なんです。毎年、慶良間の阿嘉島に泳ぎに行ってますが、まさにトロピカルで本当に周りの珊瑚礁も、昨年、国立公園になりましたけど、見事な海です。ただ僕ら地元で多少、歴史と文化を知っている人間からすると、阿嘉島の集落自体が面白いんですね。ここに拝所があつて、これはまさに島で生きてきた人間達の蓄積してきた観光資源だと思うんです。また、渡名喜島では古民家をリニューアルして滞在出来るという良いものになっています。これらは大量に来て欲しいのではなくて、そういう魅力がある島もいっぱいあつて選択できるということです。様々なニーズやシチュエーションに対応できる魅力作り、それに必要な観光インフラはどうあるべきかなんだと思います。

○尾澤 実は観光とインフラ整備についてシナリオを理解していただくために、本を読んでください、HPを見てくださいいではなくて、観光客もわかりやすいように、カードを発行する予定です。沖縄の観光とインフラについて、カードを集めながら楽しんで理解していただきたいと思っています。首里城、海洋博公園、ダムツーリズム、道の駅で出すつもりで

す。更に先ほどの渡名喜島等の離島の町作りで出せればと思っています。そうすると離島シリーズみたいな形ができ、皆さん離島に興味をもっていただけるし、行っていたけます。

観光とインフラの融合

○高良 沖縄の様々な魅力のルートを辿る、確認することになりますね。今回、この対談の企画をいただいたとき、これまで沖縄振興開発計画に基づいて沖縄の産業、生活基盤等のインフラは相当整備されてきました。それを将来に向けて観光インフラという切り口から、県民だけでなく観光客を見据えてインフラのありべき姿まで踏み込まれた。そしてインフラ全体を見つめ直し、磨き直す、そういったことをお考えになったことは、すばらしいと思います。もう一つ、お客さんもある時期は県民とここで暮らしているわけですから、当然視野に入れた防災対策、危機管理対策は必要なのだという



沖縄総合事務局 次長 尾澤 卓思

ことを提言でおっしゃっている。観光は別に特別なものでなくて、沖縄のまさにリーディング産業であれば、それを受け入れて楽しんでいただく、また来ていただくことのために、インフラというものが総力を挙げて向き合っていることだと思うんですね。そういう点では随分ソフトの分野も取り込んだ戦略になって面白く感じました。

○尾澤 観光客にとって良いことは、県民にも良いことなんです。むしろ観光客の方がなれてない分だけ、丁寧に物を説明したり、誰もが使えるように、ユニバーサルデザイン的な話も含めて配慮したり、観光客への対応が難しいと思うんですよ。そこに焦点を合わせておくと県民にとつてもすごく良い物ができて、観光客を対象にしながらも実は県民生活の質の向上が一つの狙いでもあります。もう一つは観光とインフラは切っても切れない物であつて、観光があつて、インフラがそれを支えるだけではなくて、観光とインフラは融合しているということなんです。インフラそのものが観光の資源だという発想が今まであるようではなかった。私としては頭の整理をきちんとして、沖縄の経済が日本のフロントランナーを目指すのと併せて沖縄のインフラが日本のインフラのフロントランナーになることを目指そうと思っています。そういう意味で提言も出し、雑誌「土木施工」にも書いて、皆さんに我々が考えていることを共有してもらふことから始め、それができれば次の新しい提言を考えていきたいですね。今日お話しさせていただ

たような質問に対して、色々な方からご意見をお聞きして、まとめていきたいと思っています。

○高良 すばらしいですね。従来観光とインフラとは全く別々に議論されてきたのですが、いまや現実を見ると、インフラが新しい資源になるわけですからね。

○尾澤 インフラ整備が入って観光は磨かれて観光資源になります。観光客100万人に向けて沖縄の競争力を強くする、またハワイに匹敵するためには、沖縄の魅力をもう一度磨く必要があると思います。

○高良 30年ほど前、沖縄コンベンションセンターを作る時に、ハワイの観光ビュローの事務局長が、「確かにハワイは観光地として世界有数の観光地であるが沖縄も磨けば沢山の資源を持っている。歴史や文化も厚いし、インフラ整備が進んで、その時の魅力とタイアップして交通の利便性も高まってくと、ハワイに全くない物を持っている。将来、沖縄がそういう物を磨けたときに、ハワイのライバルとして強敵になる。しかしまだ沖縄は観光地として持っている沢山の魅力の引き出しの一部しか見せていない。」と興味深いことをおっしゃっていました。その土地ならではの物に手を加えて磨いて、いろいろと工夫をしていけば、面白い町になると思います。それに必要なのがまさにインフラだと言うことがよく解りました。

○尾澤 本日は勉強になりました。ありがとうございました。

平成27年度 内閣府 沖縄担当部局予算(案)について

成長するアジアの玄関口に位置付けられるなど、大きな優位性と潜在力を有している沖縄が日本のフロントランナーとして経済再生の牽引役となるよう、国家戦略として、沖縄振興策を総合的、積極的に推進します。

平成27年度 沖縄振興予算(案) 3,340億円

(復興特区(15億円)を含む)

※平成26年度予算 3,501億円 ※対前年度比 △162億円、△4.6%

※()内は前年度予算

沖縄振興一括交付金

沖縄の実情に即してよりの確かつ効果的に施策を展開するため、沖縄振興に資する事業を県が自主的な選択に基づいて実施。

1,618億円 (1,759億円)

沖縄振興特別推進交付金(ソフト)
806億円 (826億円)

沖縄振興公共投資交付金(ハード)
811億円 (932億円)

那覇空港滑走路増設事業

那覇空港滑走路増設事業は、東アジアの中心に位置する沖縄の優位性・潜在力を生かすために必要不可欠なインフラづくりであり、「強く自立した沖縄」の実現に向けた起爆剤の役割を担う。

330億円 (330億円)

※平成26年1月着工、平成31年末までに工事完了

沖縄科学技術大学院大学

世界最高水準の教育・研究を行い、イノベーションの国際的拠点となるため、新規教員の採用や新たな研究棟の設計などOISTの規模拡充に向けた取組を支援するとともに、OIST等を核としたグローバルな知的・産業クラスターの形成を推進。

167億円 (198億円)

その他の主要要求事項

公共事業関係費等

1,424億円

※那覇空港滑走路増設事業、復興特区を含む
(1,423億円)

小禄道路、那覇港・石垣港における旅客船ターミナル、那覇空港など産業・観光の発展を支える道路や港湾、空港、農林水産業振興のために必要な生産基盤などの社会資本の整備、学校施設の耐震化や災害に強い県土づくりなどを実施するため、国直轄事業及び地方公共団体等への補助事業に係る公共事業関係費等を計上。

北部振興事業

51億円 (51億円)

県土の均衡ある発展を図るため、北部地域の連携促進と自立的発展の条件整備として、産業振興や定住条件の整備等を行う北部振興事業を実施。

鉄軌道等導入課題詳細調査

2億円 (2.0億円)

鉄軌道等に関し、これまでの調査で抽出された課題を踏まえ、観光需要や県民需要を精査するとともに、まちづくりや制度面などに関して、沖縄県と連携しつつ、詳細に調査を行う。

駐留軍用地跡地利用の推進

3.6億円 (0.8億円)

平成26年度末に返還予定の西普天間住宅地区における国際医療拠点形成に向けた取組を始めとする駐留軍用地の跡地利用の推進を図る。

国際会議の開催

3.5億円 (新規)

沖縄において国際会議を開催するための経費。

平成27年度 内閣府沖縄担当部局予算(案)

(単位：百万円、%)

事 項	平成27年度 予算(案)	前年度 予算額	対前年度比	
			増△減額	比 率
1 沖縄振興交付金事業推進費	161,759	175,881	△ 14,122	92.0
(1) 沖縄振興特別推進交付金	80,635	82,635	△ 2,000	97.6
(2) 沖縄振興公共投資交付金	81,124	93,245	△ 12,122	87.0
2 公共事業関係費等	(1,485) 142,411	(942) 142,326	85	100.1
(1) 公共事業関係費	(4) 132,896	132,839	57	100.0
(2) 沖縄教育振興事業費	(1,481) 9,516	(942) 9,487	29	100.3
3 駐留軍用地跡地利用推進経費	360	77	283	465.3
4 沖縄北部連携促進特別振興事業費	2,572	2,572	0	100.0
5 戦後処理経費	2,883	2,693	191	107.1
(1) 不発弾等対策経費	2,644	2,545	98	103.9
(2) 対馬丸遭難学童遺族給付経費	3	6	△ 3	54.3
(3) 対馬丸平和祈念事業経費	15	15	0	100.3
(4) 位置境界明確化経費	9	10	△ 2	83.5
(5) 沖縄戦関係資料閲覧室事業経費	14	14	0	101.2
(6) 所有者不明土地問題の解決に向けた実態調査	198	101	96	195.1
6 沖縄科学技術大学院大学学園関連経費	16,726	19,804	△ 3,078	84.5
(1) 沖縄科学技術大学院大学学園運営費	15,662	18,689	△ 3,027	83.8
(2) 沖縄科学技術大学院大学学園施設整備費	1,064	1,115	△ 51	95.4
7 沖縄振興開発金融公庫補給金	1,044	1,009	35	103.5
8 鉄軌道等導入課題詳細調査	196	196	0	100.0
9 沖縄振興推進調査費	62	62	0	100.0
10 沖縄における国際会議の開催に要する経費	354	0	354	皆増
11 その他の経費	5,601	5,507	94	101.7
合 計	(1,485) 333.970	(942) 350,127	△ 16,158	95.4

※四捨五入の関係で、合計等は必ずしも一致しない。

※上段()の数字は復興特会分であり、内数である。

※平成27年度内閣府沖縄担当部局予算(案)については、以下の内閣府ホームページもご参照ください。

<http://www8.cao.go.jp/okinawa/3/33.html>

内閣府 沖縄担当部局の予算

検索





総務部

製薬・医療関連企業による「沖縄力発見ツアー2014」

～沖縄への投資促進や新たな産業の創出・振興等を目指して～

内閣府は、2月12日(木)～2月13日(金)、県外の製薬・医療関連企業の代表者等の方々に沖縄のポテンシャル(沖縄力)やビジネス環境等を見ていただく、本年度4回目の「沖縄力発見ツアー2014」を実施しました。

今回のツアーでは、沖縄科学技術大学院大学や那覇空港貨物ターミナルビル等の視察とともに、琉球大学医学部や県内の製薬・医療関連企業等との意見交換等を行いました。

「ワーキング・ディナー」

沖縄力発見ツアーの初日(12日)は、県外から参加された21社の代表者等の方々と、内閣府幹部、沖縄県幹部、県内経済界関係者等の方々との間でワーキング・ディナーを実施しました。

同ディナーにおいては、河合内閣府沖縄総合事務局長から「アジアのゲートウェイ」として発展する沖縄」について概況説明をした後、参加者間の意見交換が活発に行われました。



ワーキング・ディナーにおける意見交換

「視察」

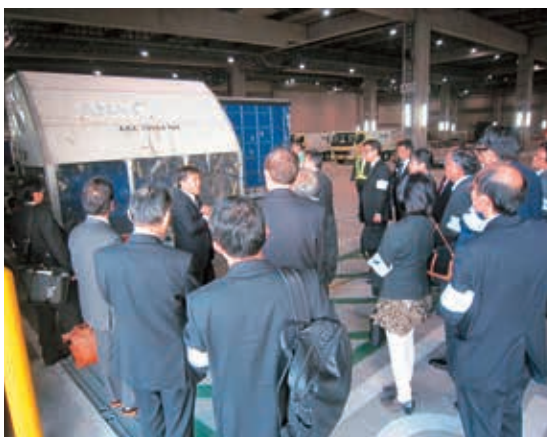
翌日(13日)は、沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター及び沖縄ライフサイエンス研究センターにおいて、それぞれの施設の視察のほか、概要説明及び入居企業による取組概要等のプレゼンテーションを行いました。また、沖縄科学技術大学院大学、那覇空港貨物ターミナルビル(ANA)をそれぞれ視察しました。

「琉球大学医学部及び県内企業との意見交換」

琉球大学において、同医学部から「再生医療・細胞治療」や「感染症の迅速診断とその治療法」、「ゲノムと環境因子」の研究を紹介していただくとともに、意見交換を行いました。

また、沖縄バイオ産業振興センターにおいても、県内の製薬・医療関連企業との意見交換を行いました。県外から沖縄に進出した製薬・医療関連企業からは、進出してきた理由として「沖縄には海洋性資源などポテンシャルの高さを感じる」、「東南アジアを含むアジアを考えた場合、沖縄はその中心としての魅力がある」、「ベンチャー企業にとって、沖縄ライフサイエンス研究センターのように、研究を行う場所、商品の製造ができるのは魅力」等の意見がありました。

内閣府では、今回の沖縄力発見ツアーで頂いた様々な方々のアドバイス、お声を今後の取組にいかしていきたいと考えています。



那覇空港貨物ターミナルビル(ANA)視察



琉球大学医学部との意見交換

しまのゆんたくin伊平屋

持続・発展可能な地域コミュニティの形成に向けて

沖縄総合事務局職員と地元行政機関、地域住民等が「ゆんたく」し、地域活性化のきっかけになることを目的に「しまのゆんたく」を開催しています。

※ゆんたく＝沖縄の方言で「おしゃべり・談話」



去る1月21日(水)に、豊かな自然や琉球王朝時代の名所・旧跡が数多く存在する「原風景の島」伊平屋島において、「しまのゆんたくin伊平屋」を開催しました。

会合に先立ち、「ヤイトハタ(アーラミールバイ)養殖場」、「製糖工場」、「精米所」等を伊礼村長の案内により視察し、施設の活用状況や老朽化問題等の説明を受けました。その後、我喜屋公民館において、村役場、各区長、村内各種団体、沖縄県、沖縄総合事務局等から約70名が参加し、「しまのゆんたく」を行いました。

地元からは、人口の減少、若い人材の不足、農業・漁業の担い手不足、子育て環境の向上、村営住宅の整備等の経済・生活環境の現状や課題が紹介され、島の基幹産業を担う製糖工場・精米所の老朽化対策、我喜屋ダムの利水、山羊畜産への支援等の要望がありました。

これらの課題や要望に対して、沖縄県、沖縄総合事務局等から、地域住民が実施主体となる地域振興策、新規就農者支援策、農村の活動や営農の継続

支援策、6次産業化支援策、地域資源を活用した事業化支援策、観光振興策等が紹介されました。

その後、集落営農・6次産業化による儲かる農業に向けた取組、集落内の空家を利用した住環境の整備、民泊等観光産業の推進、製糖工場・精米所の老朽化対策(建替え等)が必要である旨、活発な意見交換が行われました。

会合の終わりに、伊礼村長から「伊平屋村では、島に生まれ、島に誇りを持ち、島に住んで良かったと思えるよう、今日の「ゆんたく」の要望や意見を尊重し、引き続き、地域住民と一体となって島の発展に頑張っていきたい」



我喜屋区長



伊礼伊平屋村長



河合沖縄総合事務局長



旨、発言がありました。当局では、今回の「ゆんたく」を踏まえて、伊平屋村における地域活性化の取組を沖縄県や関連団体とも連携して支援するとともに、他の離島等においても、地域の発意による地域活性化のお手伝いをしてまいります。

【総括判断】

項目	前回(26年10月判断)	今回(27年1月判断)	前回との比較	総括判断の要点
総括判断	回復している	回復している	→ (不変)	個人消費は緩やかな回復が続き、外国客の大幅な増加などから観光は好調に推移しているほか、雇用情勢は緩やかに改善しつつある

【先行き】

沖縄振興策などを背景として景気が回復しているなかで、海外景気の下振れリスク、原材料価格や賃金の動向などについて、引き続き注視していく必要がある。

【各項目の判断】

項目	前回(26年10月判断)	今回(27年1月判断)	前回との比較
個人消費	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→
観光	回復している	回復している	→
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
設備投資	前年度を下回る見通し	前年度を上回る見込み	↑
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	→
生産活動	緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる	緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる	→
企業収益	増益見通し	増益見込み	→
企業の景況感	現状判断は「上昇」超	現状判断は「上昇」超幅が縮小	→

(注) 27年1月判断は、前回26年10月判断以降、27年1月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

【主要項目の動向】

個人消費

〔緩やかに回復している〕

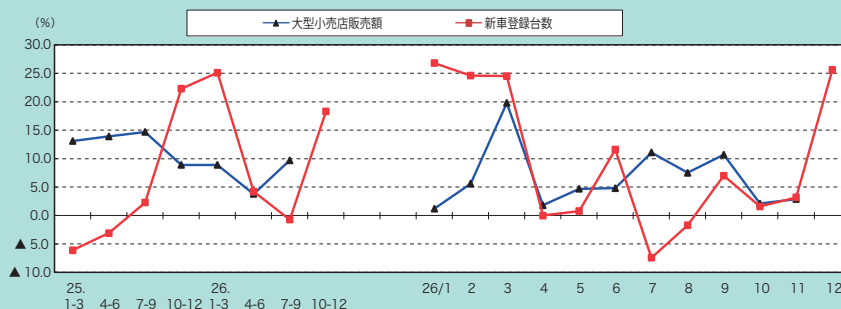
大型小売店販売額については、飲食料品が堅調なほか、店舗改装効果などから前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額については、新規出店効果のほか、ファストフードが堅調なことなどから前年を上回っている。

新車販売台数については、新型車効果などにより軽自動車为好調なことから前年を上回っている。中古車販売台数については、前年を下回っている。

家電販売額については、前年を下回っているものの、エアコンや白物家電などで持ち直しの動きが続いている。このように、個人消費は緩やかに回復している。

○大型小売店販売額、新車登録台数（前年比）



(資料) 大型小売店販売額：経済産業省、沖縄総合事務局

新車登録台数：沖縄県自動車販売協会

「管内経済情勢報告」の詳しい内容等をお知りになりたい方は、財務部ホームページで資料の全体版がご覧になれますので、ぜひお立ち寄りください。

URL : http://www.ogb.go.jp/zaimu/zaimu_keizai.html

観 光

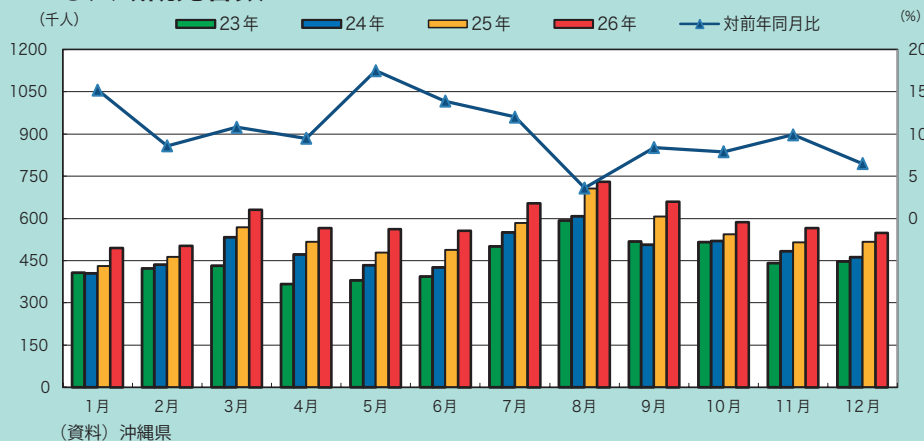
[回復している]

入域観光客数は、国内客が報奨旅行などの団体需要などから増加し、外国客がチャーター便運航を含めた航空路線の拡充などにより大幅に増加していることから、14ヶ月連続で単月の過去最高を記録している。

ホテルの客室稼働率、客室単価はともに前年を上回っている。

このように、観光は回復している。

○入域観光客数



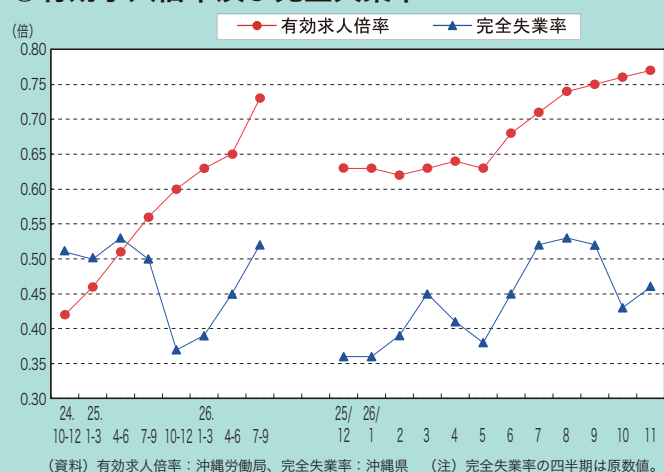
雇用情勢

[緩やかに改善しつつある]

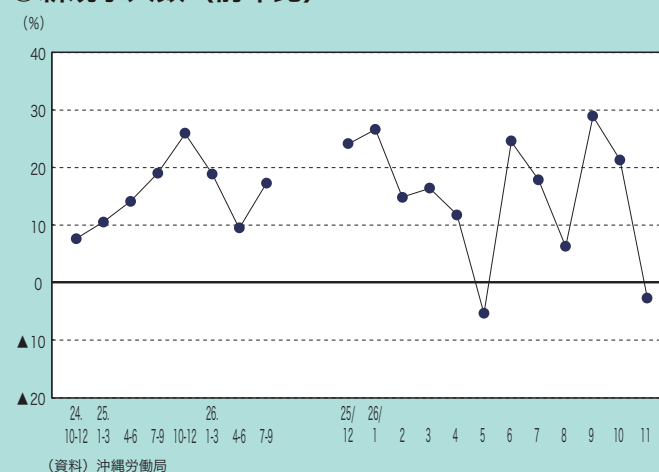
新規求人数は、医療・福祉、卸売業・小売業など多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っていることなどから、有効求人倍率(季節調整値)は上昇している。

このように、雇用情勢は緩やかに改善しつつある。

○有効求人倍率及び完全失業率



○新規求人数(前年比)



【その他の項目の動向】

住宅建設

新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲ともに前年を下回っており、全体でも前年を下回っている。

設備投資

法人企業景気予測調査(26年10～12月期)でみると、全産業では前年度を9.0%上回る見込み(石油・石炭、電気・ガス・水道を除くと13.9%上回る見込み)となっている。

公共事業

公共工事前払金保証請負額(26年4～12月累計)は、前年を上回っている。

生産活動

食料品は、酒類が前年を下回っており、全体でも前年を下回っている。窯業・土石では、好調な公共工事を背景としてセメントの出荷が引き続き前年を上回っており、化学・石油製品も前年を上回っているものの、金属製品は前年を下回っている。

このように、生産活動は緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる。

企業収益

法人企業景気予測調査(26年10～12月期)でみると、26年度下期は、全産業で7.6%の増益見込みとなっている。

26年度通期は、全産業で9.0%の増益見込みとなっている。

企業の景況感

法人企業景気予測調査(26年10～12月期)でみると、全産業では、「上昇」超幅が縮小している。

業種別にみると、製造業では、「上昇」とする企業が減少していることなどから「上昇」超幅が縮小している。非製造業では、卸売・小売、建設で「上昇」とする企業が減少していることなどから「上昇」超から「上昇」と「下降」の均衡となっている。

輝き女性塾

女性の視点や感性を生かした起業を応援します！

沖縄総合事務局経済産業部では、地域に根差した事業の発掘と女性の活躍サポートを目的として、平成25年度より、女性を対象にした創業塾「輝き女性塾」を開催しております。

「輝き女性塾」では、講師と創業支援をするサポーターが受講生ひとりひとりの気持ちに寄り添い、講義やグループワークとおして、具体的・実践的なビジネスプランを構築していきます。

平成25年度は、創業を予定している女性10名に受講していただき、そのうちの3名が実際に創業し、3名が創業に向けた準備に現在取り組んでいるところです。平成26年度は、創業予定者向け「プレスタートコース」に加え、新たに創業1～2年「ステップアップコース」を設けました。

創業予定者向けプレスタートコース

7名の受講生が「女性の起業における特有のビジネスモデルの分析」、「自分の価値を考えるセルフブランディング」、「女性ならではの魅力、女性特有の課題を考えての事業計画づくり」、「数字で未



それぞれのステップに合わせた講義

来を描く（経費計画）」について学び、それぞれの「できること」「やりたいこと」「人の役にたてたいこと」のビジネス化する作業を行いました。

創業1～2年「ステップアップコース」

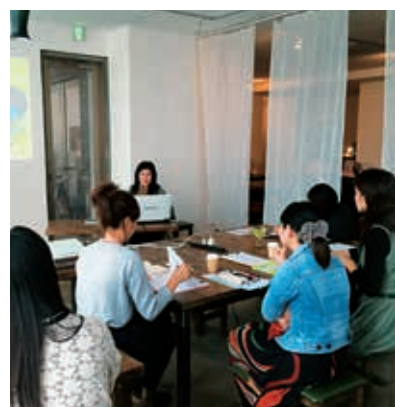
様々な課題に直面し、乗り越えてきた県内外の女性起業家、多くのアーティスト・クリエイターをプロデュースしてきた方を講師として「これまでの活動と今後の展開」についてお話いただき、受講生6名の現状や課題について意見交換を行い、今後の展開についてのプランを練り込んでいきました。



グループワークでビジネスプランを練り上げます



プレスタートコース受講生



ビジネスプランを発表し、アドバイスをもらいます

2月には、プレスタートコース、ステップアップコースともに、成果報告会を開催しました。約3ヶ月間にわたりブラッシュアップしてきたビジネスプランを、応援してくださる皆さんの前で発表し、創業やさらなるステップアップにむけたアドバイスをいただきました。今年度の「輝き女性塾」受講生による13ビジネスの今後がとも楽しみでです。

経済産業省は、新たに起業を目指す創業者や新分野に挑戦する第二創業者等を支援しております。当局経済産業部においても、沖縄地域の活性化に繋がる新たなビジネスや雇用の創造を目指す「創業」を引きつづき応援してまいります。お気軽に経済産業部地域経済課（TEL：098-866-1730）までお問い合わせください。

沖縄の観光振興に貢献する旅客船ターミナルの整備

観光客1000万人へ向けて

沖縄のクルーズ船の状況

国内外からの大型クルーズ船による観光客の受け入れは、沖縄県のリーディング産業である観光の振興を進める上で重要です。

2014年の沖縄へのクルーズ船の寄港は162回を記録しました。さらに2015年は206回を予定(2月末時点)、そのうち那覇港は101回、石垣港は96回とそれぞれ過去最多の見通しとなっています。また、那覇港においては過去最大となる16万トン

級のクルーズ船の寄港も予定されています。

旅客船ターミナルの整備状況

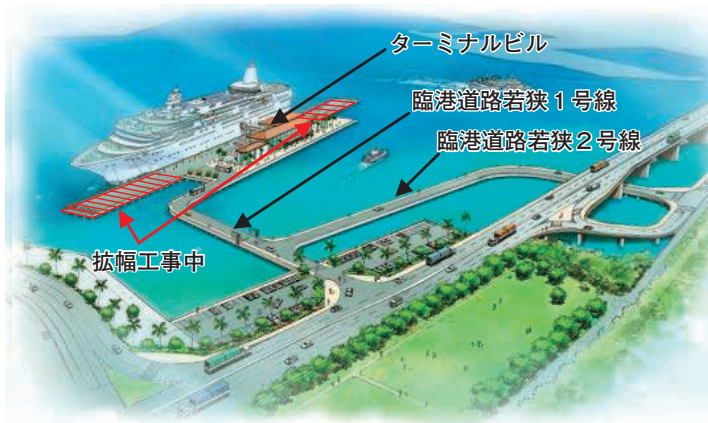
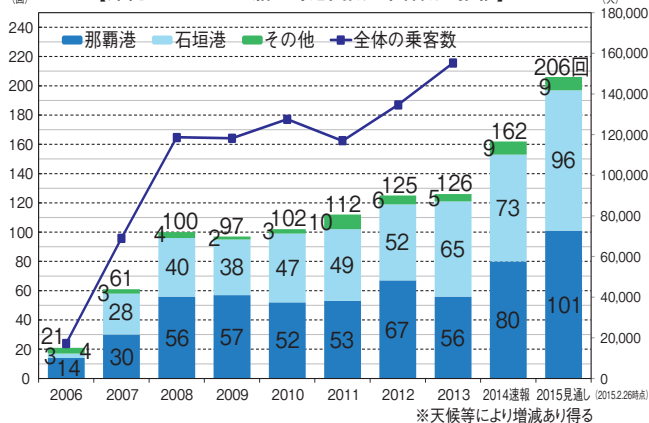
大型クルーズ船の受け入れ施設の整備は、沖縄総合事務局と港湾管理者で連携して取り組んでいます。沖縄総合事務局は、重要港湾(那覇港、石垣港、平良港)において、国直轄事業として旅客船ターミナル(岸壁、泊地)や臨港道路等の整備

を、港湾管理者は旅客船ターミナルビル等の整備を行っています。

那覇港では、旅客船ターミナル、臨港道路若狭1号線を2009年9月に暫定供用し、2014年4月にはターミナルビル、8月には臨港道路若狭2号線を供用しています。またクルーズ船とターミナルビルを繋ぐボーディングブリッジも整備され寄港環境が向上しています。現在は、岸壁の拡張工事を行っており、観光バスやタクシーなどの駐車スペースを拡充することにより、ふ頭内の混雑が緩和さ

れ、更なる利便性の向上が図られます。また、石垣港では、7万トン級に対応した旅客船ターミナルの整備を進めており、平良港においても貨物船と旅客船の兼用となる複合一貫輸送ターミナルの整備を行っています。

【沖縄へのクルーズ船の寄港回数と乗客数の推移】



那覇港旅客船ターミナル



石垣港旅客船ターミナル



平良港複合一貫輸送ターミナル

*『なかゆくい』とは、沖縄の方言で「ひと休み」という意味です。

みなさん、牛乳飲んでますか？

平成25年の沖縄県の一人当たり牛乳等(加工乳含む)の消費量は21.9L。
全国の消費量27.5Lの約8割となっています。

(資料：沖縄県畜産課「おきなわの畜産」)

牛乳はコップ1杯で、カルシウムなら1日に摂りたい量の1/3、ビタミンB2、B12なら1/4を摂取することができます。またストレスへの抵抗力をつけるといわれているパントテン酸も1日の必要量の1/5を摂ることができます。

(資料：Jミルク「牛乳・乳製品の知識」)

朝食などにコップ1杯の牛乳を取り入れてみてはいかがでしょうか。



乳牛の飼養状況について

県内の乳牛の飼養戸数は81戸、飼養頭数は4,731頭で、年々減少傾向にあります。(資料：沖縄県畜産課「家畜・家さん飼養頭羽数調査(H25.12月末現在)」)

県内では16市町村で乳牛が飼養されており、毎日おいしい生乳を生産しています。

また、県内には9社の牛乳工場(生乳処理を行う工場)で生乳100%使用の牛乳を製造しています。

是非飲み比べてみてください。



農林水産部

今回は

栄養素の宝庫「牛乳」

沖縄食材を食べ尽くす!

美味しい沖縄

牛乳は、カルシウムの他、たんぱく質、ビタミンなどが、バランス良く含まれている栄養の宝庫です。今回のなかゆくいでは、私たちの健康維持に大切な役割を果たしている牛乳をご紹介します。

乳牛の分布と牛乳工場の紹介

- 乳牛飼養頭数
- ★ 牛乳工場

※県内9社の代表的な製品(牛乳)をご紹介します

このほか、小売店のプライベートブランド牛乳も製造しています。



資料：沖縄県畜産課「家畜・家さん飼養頭羽数調査(H25.12月末現在)」
農林水産省「牛乳乳製品統計」

コラム

沖縄の牛乳は1Lじゃない

本土の1L牛乳パックの容量は1,000mlですが、沖縄では946ml。この中途半端な数字、なぜなのでしょう？

沖縄（基地の外）に牛乳工場が造られたのが、本土復帰前の昭和31年（1956年）頃。その当時は容量を測る単位は米国で使われている「ガロン」が基本でした（1ガロン=3,785ml）。

紙パックが主流となった昭和50年代でも、ガロンが定着していたため、本土で一般的な容量「1,000ml」ではなく、「クォーターガロン（1/4ガロン）=946ml」で製造・販売するようになったようです。

沖縄の酪農(牛乳)の歴史

戦前 沖縄県で乳牛が初めて登場したのは、明治16年(1883年)のことで、飼養頭数2頭、年間搾乳量1.6tでした。大正15年(1926年)には314頭まで増頭していますが、当時牛乳といえば、病人や母乳に恵まれない乳児の薬味用として利用される程度だったようです。

戦中 昭和17年頃(1942年)に本島南部地域において増加したようですが、第二次世界大戦でほぼ壊滅状態となりました。

戦後 戦後の酪農は、戦火をくぐって生き残った10頭の乳牛からスタートと言われてしています。戦災を逃れたホルスタイン系雑種や、本土・アメリカ・オーストラリアからホルスタイン種やジャージー種を導入し増殖につとめてきました。

昭和31年(1956年)頃に牛乳工場が出来るまでは、「搾乳業者」と呼ばれる業者が生乳生産→処理→販売を行っていましたが、その処理方法は殺菌されたものではなかったため、飲む際にはナベで温めてから、というのが常識だったそうです。また、当時の「牛乳」といえば脱脂粉乳とバターから造られる還元乳でした。生乳100%の牛乳が広く出回り始めたのは、昭和50年代に入ってからのことです。

資料: 富山真秀「沖縄県畜産史」
新垣守「沖縄森永乳業40年史 牛乳と共に40年」

どんな乳牛がいるの?どれくらいお乳を出すの?



ホルスタイン種

ホルスタイン種 ～乳牛の女王～

国内(沖縄県含む)で飼養されている乳牛の99%はホルスタイン種です。体が大きく発達していて、乳量が多く、乳用種として優れていますが暑さには弱いです。

沖縄の乳牛1頭当たり年間乳量は7,987kg(25年度)となっており、1日当たりでは約26.2kgの乳量です。

ちなみに、全国では8,198kg/年、26.9kg/日となっています。沖縄の乳牛は、暑い中健闘しているといえます。

ジャージー種 ～可憐な顔つき～

体は小型で目が大きく、可憐な印象のジャージー種。沖縄でもわずかですが飼養されています。ホルスタイン種に比べて乳量は少ないですが、乳脂肪率はホルスタイン種より高いのが特徴です。

その他の品種

その他の品種として、ブラウンスイス種、ガンジー種、エアシャー種などがあります。



ジャージー種

ホルスタインは、暑さが苦手でも毎日がんばってます！

牛乳を使った簡単おやつ☆☆牛乳もち☆☆



(材料)

牛乳	400ml
片栗粉	大さじ6
砂糖	大さじ3
きな粉	大さじ3
A 砂糖	大さじ3
塩	少々

作り方

1. 鍋に牛乳、片栗粉、砂糖を入れてよく混ぜ、火にかけて木じゃくしで混ぜる。
2. 煮立ったら混ぜながら2分ほど煮る。
3. バットにオープンシートを敷いて2を流し入れ、冷ましてから冷蔵庫で冷やす。十分に冷えたら食べやすく切り分けて器に盛る。
4. Aを混ぜて3にかける。

資料提供：一般社団法人Jミルク

作ってみよう! ☆☆バター☆☆

準備する物：①生クリーム

②ふた付きの容器(ペットボトルでも可)

③割り箸

※生クリーム・容器はよく冷やしておこう。



資料提供：一般社団法人Jミルク

農林水産部

黒糖づくり実演・パネル展

～沖縄の宝 さとうきびの栽培から黒糖ができるまで～

農林水産部では、1月20日から23日までの4日間、「沖縄の宝 さとうきびの栽培から黒糖ができるまで」と題したパネル展を開催しました。この中では、さとうきびや黒糖について、パネルや関連商品、DVD上映、さとうきびポット栽培苗の展示、沖縄の離島8島

の黒糖の試食等を通して紹介しました。来場者数は4日間で約250名を数え、多くの方々にご覧いただきました。

また、1月21日には、泊幼稚園の園児約100名を招いて、黒糖づくり体験や出来たて黒糖の試食を行いました。

当イベントをきっかけに、沖縄の基

幹作物であるさとうきびと沖縄の特産品である黒糖について、子供たちをはじめ多くの方々に興味を持ってもらい、今後一層理解を深めて頂けることを期待しています。



さとうきび絞り体験



黒糖づくり体験



パネル展の様子

農林水産部

沖縄の養豚、ブランド豚についてもっと知ろう!

「消費者の部屋」特別展示

沖縄県内における養豚、ブランド豚について理解を深めていただくために、1月26日から1月30日までの5日間、沖縄総合事務局1階行政情報プラザにおいて、「沖縄の養豚、ブランド豚肉についてもっと知ろう!」をテーマに、沖縄における豚の飼養状況や銘柄豚、豚肉加工品に関するパネル等の特別展示を行いました。

沖縄では琉球王国の時代から豚肉やその加工品は、行事や食生活に欠かせないもので、豚の飼養戸数、頭数はそれぞれ全国5位、13位と上位に位置しています。

会場では、沖縄県内における豚の歴史や飼養状況、主な品種や豚肉の部位、また県内で流通している銘柄豚の紹介

や豚肉加工品に関するパネルや加工製品を展示するとともに、豚が飼育されている農場からお肉として食卓に並ぶまでの食肉の安全性を紹介したDVDを放映しました。

特に、年々出荷頭数が増加し、今後も生産拡大が期待され、また、近年、

海外・県内外に販路が拡大しつつある「アグーブランド豚肉」の特徴等についても分かり易いパネルにして紹介しました。

展示期間中は大勢の方々に御来場いただき、県内の養豚・ブランド豚肉について理解を深めていただきました。



展示会場



パネル展示の様子

農林水産部

食料・農業・農村政策審議会 企画部会 地方意見交換会（沖縄ブロック）

食料・農業・農村基本計画は、食料・農業・農村基本法に基づいて、政府が中長期的に取り組むべき方針を定めたものです。概ね5年ごとに情勢変化等を踏まえて、変更することとしており、現在、新たな基本計画の策定に向けた見直しが食料・農業・農村政策審議会において進められています。

食料・農業・農村に関する政策は、毎日の国民生活や我が国の経済社会のあり方に深く関わるものであり、消費者や各地域、各分野の現場で実務にあたられている方々の問題意識やニーズに沿い、国民の理解と支持を得られるものであることが必要です。

沖縄総合事務局では、県内関係者のご提案やご意見を今後の審議に活かすため、1月16日に、各分野で活躍されている方々を意見陳述者として招き、意見交換会を開催しました。意見交換会では、農林水産省からこれまでの審議の経過報告が行われるとともに、食料・農業・農村政策審議



会企画部会委員と意見陳述者による活発な意見交換が行われました。

意見交換会の概要は、以下のホームページで公開しています。

<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kikaku/bukai/index.html>

意見陳述者

渡慶次 賀先 氏	農業生産法人(株)グリーンいとまん 常務取締役
加力 謙一 氏	(株)あいあいフォーム 経営企画室長
具志 純子 氏	沖縄県生活協同組合連合会 会長理事
中西 淳 氏	(株)サンエー 専務取締役
山城 毅 氏	沖縄県農林水産部長

農林水産部

薬用作物に係る生産者及び実需者等情報交換会 ～産地拡大に向けた情報を共有化！～

近年、消費者の健康志向が高まる中でウコン、アロエ等の薬用作物に注目が集まっていることを受け、農林水産部では、昨年6月に薬用作物における生産等の課題と対応方向について報告書を取りまとめたところ。本取りまとめに当たり開催した検討会では、生産者及び実需者の双方の立場から、薬用作物に関する需給状況や栽培技術等の関連情報が少ないことが生産拡大や産地の形成を困難とする一因であるとの意見がありました。

このことから、薬用作物に関する情報の発信・共有化を図ることを目的として、1

月29日に、生産者及び実需者等の関係者にお集り頂いた情報交換会を開催しました。

情報交換会では、当局から薬用作物及び健康食品の現状と課題等について紹介した後、生産者及び実需者から、栽培状



況や生産の課題、健康食品の需要動向や課題等についての事例発表をいただきました。さらに、アドバイザーを交えた情報交換や個別相談を行い、薬用作物に係る情報の共有化を図りました。

※「沖縄における薬用作物の産地拡大に向けた検討会」報告書は、以下のホームページで公開しています。

http://ogb.go.jp/nousui/seisansinkou/yakuyou/140611_1.pdf

○事例発表者：(有)沖縄長生薬草本社、(株)アロエース

○アドバイザー：琉球大学農学部 諏訪竜一准教授、沖縄県農林水産部 山口悟普及指導員

経済産業部

産総研 本格研究ワークショップin沖縄

ライフテクノロジー等の研究開発等を行う、独立行政法人産業技術総合研究所（以下、「産総研」）は、地域産学官連携を促進することを目的に、全国7地域において「本格研究ワークショップ」を開催しております。

九州地域では、1月19日に「沖縄発 健康イノベーションに貢献するライフテクノロジー」をテーマとして沖縄にて開催され、県内バイオ産業に関わる企業、大学・研究機関及び支援機関など約170名の方々が参加されました。

本ワークショップでは、産総研の役割として、基礎研究から産業化・商品化まで切れ目無く産業界へ“橋渡し”する機能を推進し、沖縄地域の企業との連携を、さらに深めていく事が説明されました。沖縄企業との連携事例として、金秀バイオ株式会社とオーピーバイオファクトリー株式会社とのそれぞれの取組が紹介され、また、味の素株式会社常務執行役員の尾道一哉氏より、「オープンイノベーションによる新たな価値創造」と題した基調講演が行われました。

講演と並行し、産総研の技術シーズ等を紹介するポスター展示や技術相談会が行われました。



経済産業部

地域活性化セミナー

沖縄地域産業立地推進協議会(※)では、地域活性化に向けたプロジェクト立ち上げから事業継続までの仕組みを学び、沖縄地域における産業振興を図るため、平成26年11月28日に「地域活性化セミナー」を開催しました。

同セミナーでは、講師に株式会社袖(東京都)代表取締役の玉沖仁美氏及び成田市役所企画政策部企画政策課成田ブランド推進室の識名公代氏(沖縄県うるま市出身)をお招きし、ご講演をいただきました。

玉沖氏からは、地域で取り組む事業の組み立て方と人材育成及び地域活性化における行政の立ち位置や役割等について、

成功事例である島根県海士町のさざえカレー(右下参照)の紹介を交えて講演いただきました。識名氏からは、特産品と組み合わせたご当地スイーツで観光振興につなげることを目指し結成された成田ソラガールの紹介がありました。試行錯誤の上、「成田ソラあんばん」を開発した取



セミナーの様子

※沖縄地域産業立地推進協議会

沖縄県、15の市町村、ジェトロ沖縄等の21機関で構成し、沖縄の企業誘致、産業振興に取り組んでいる協議会(事務局：沖縄総合事務局経済産業部企画振興課)です。

り組みや新聞、雑誌等を活用した情報発信等について、ご講演をいただきました。

セミナーには、市町村及び支援機関の担当者31名が参加し、多くの質疑や活発な意見交換が行われ、地域活性化に対する関心の高さがうかがえました。



島根県海士町では、海士町役場を中心に取り組んだ「さざえカレー」の開発が島の産業創出につながっております。



成田ソラガール(中央、識名氏)

開発建設部

道の駅「ぎのざ」誕生

平成26年10月10日に国土交通省において、「道の駅」第42回登録が行われ、県内から道の駅「ぎのざ」が登録されました。

11月27日には道の駅登録証の交付式が行われ、沖縄総合事務局尾澤次長から當真村長へ登録証が手交されました。

今回の登録により、全国では新たに10駅が登録され、「道の駅」は1,040駅になりました。

沖縄県内においては、平成6年に登録された「許田」を第一号に、「おおきみ」「ゆいゆい国頭」「かでな」「喜納番所」「豊崎」「いとまん」に続いて8番目の「道の駅」になります。

道の駅「ぎのざ」は宜野座村漢那の国道329号沿いに位置し、東海岸地域では初めての「道の駅」となります。

直売所では、村内で取れた農産物、

海ぶどうや「じゃがめん」「ぎのざジャム」等の加工品を販売しており、テナントやレストランも出店しています。

また、大型タッチパネルにより道路交通情報、周辺観光情報も提供しております。

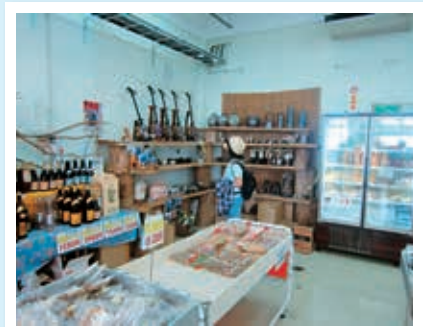
今後は東海岸地域の地域振興、観光案内等の拠点になり、地域の皆様や観光客に広く利用されることが期待されます。



道の駅「ぎのざ」



農産物販売

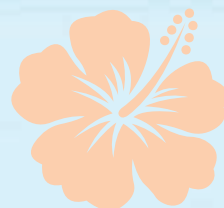


土産品販売



開発建設部

車両移動の道路啓開訓練 ～道路啓開能力の向上を目指して～



地震や津波等による大規模災害時には、道路上に大量の放置車両や瓦礫等が発生し、救助活動や緊急物資輸送などに支障が生じる恐れがあります。

緊急車両の通行ルートを迅速に確保するためには、道路管理者による放置車両対策等の強化を図る必要があります。この様な背景から災害対策基本法の一部改正が平成26年11月14日に成立し、11月21日に公布されました。

改正の主なポイントは、緊急車両の通行ルート確保のため、道路管理者自らによる放置車両の移動やその対策のため必要となる土地の一時使用などが可能となることです。

これを受けて、南部国道事務所では道路管理者として災害時に備え道路啓

開能力の向上を図る必要から、平成26年12月19日に道路啓開訓練を実施しました。

訓練内容は、沖縄近海沖地震により津波が襲来し、放置車両や瓦礫等により緊急車両が通行できず道路啓開が必要となったことを想定して、・放置車両移動・倒壊電柱除去・瓦礫除去の訓練

を行いました。

訓練終了後、反省会が行われ、そこで作業スペースが限られているため重機の入替えに時間を要したこと、車両等の移動に使用する重機のより効率的な選定、関係機関(警察・消防)との連携強化(役割分担)を図るための訓練実施などの課題が確認されました。



フォークリフトによる車両移動訓練



ユニックによる倒壊電柱移動訓練

開発建設部

沖縄風景街道南北交流会



沖縄県内では、2つの風景街道(琉球歴史ロマン街道「宿道」、やんばる風景花街道)が登録され、3つのパートナーシップ(以下PS)が活動しています。各PSが地域の魅力を発信し、連携・交流を深め、それぞれの活動や地域活性化に繋げていくことを目的として、毎年、南北交流会を実施しています。

今年度は、23団体約100名が参加し、名護市、恩納村、読谷村を主とした3つのコースを散策、散策後に意見交換会を実施しました。また、今回は、例年と違い「首里城への若水献上役伝復活祭」を支援するため、若水献上役伝の一部区間(読谷村～恩納村)をコースに取り込みました。若水献上役伝復活祭は、琉球王朝時代に国頭村辺戸で取水した若水をリレー形式で運搬し首里城へ納めるもので、

全行程を人力にて運んだ伝統行事を復活したものです。運搬行程の途中では「あやかり若水贈呈式」を各市町村長に行っていますが、南北交流会では、厳粛な雰囲気の中、恩納村長、読谷村長(喜名区長)に若水を贈呈しました。今後は、年

末の一大イベントになっていくことを期待しています。

南北交流会(各PS)では、今後も、地域と密着した連携・活動を継続的に展開していきたいと考えています。



若水運搬の様子



あやかり若水贈呈式(喜名番所)

※日本風景街道…地域の魅力・美しさを発見、創出するとともに、景観、自然、歴史、文化等の地域活性化、観光振興に寄与することを目的とし、全国で134ルート(H26.4現在)が登録されています。

運輸部

NPO法人バリアフリーネットワーク会議が 国土交通大臣表彰を受賞

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績があったとして、沖縄市にある特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議（理事長：親川修）が、国土交通大臣表彰を受賞しました。平成27年1月16日に国土交通省で表彰式があり、太田昭宏国土交通大臣から表彰状が授与されました。

沖縄観光のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化に継

続的に取り組んでおり、那覇空港に設置した日本初の空港内観光案内所「しょうがい者・こうれい者観光案内所」は単なるバリアフリー案内所にとどまらず、総合的なバリアフリーツアー援助システムの空港窓口として優れた機能を有しています。こちらを拠点とした多面的な活動により、ユニバーサルツーリズムの推進において全国の模範となる取組を進めた点が評価され、県内では2番目の受賞となりました。



太田大臣、親川代表、秋山・高橋選考委員



観光案内所

運輸部

船員最賃引き上げ ～16年ぶりの二業種同時改正～

昨年12月19日、沖縄地方交通審議会会長は、沖縄総合事務局長に対し、管内で適用される船員の最低賃金に関する答申を行いました。現在、官報公示が行われており、今年度中には答申内容のとおり改正される見込みです。旅客船及び貨物船等に係る船員の最低賃金が同時に引き上げられた場合の改正は16年ぶりとなります。

船員の最低賃金は、最低賃金法の特例規定により、業種・航行区域・総トン数の区分別に国土交通大臣又は地方運輸局長等により決定されています。沖縄管内では「沖縄内航鋼船運航業及び木船運航業」及び「沖縄海上旅客運送業」の二業種の最低賃金が設定されました。

上記二業種の最低賃金は、職員（船長や機関長等の役職者）、部員（職員以外）それぞれの職責毎に最低賃金額が設定され、官報公示内容が施行された場合の最低賃金は、次のとおりです。

【沖縄内航鋼船運航業及び木船運航業】

- 職員（一定期間*以上）：1,950円増の243,350円
- 職員（一定期間*未満）：1,950円増の226,900円
- 部員（海上経歴3年以上の者）：1,900円増の184,750円
- 部員（海上経歴3年未満の者）：1,750円増の175,450円

【沖縄海上旅客運送業】

- 職員：1,950円増の240,250円
- 部員：1,500円増の179,000円

なお、大臣決定の最低賃金は、昨年中に既に施行されており、他の地方運輸局等では、沖縄と同様、年度内に改正賃金が施行される予定です。

*「一定期間」とは、特定の船舶職員養成施設を修了した後の勤務期間が、当該課程毎に定める期間をいう（最短6ヶ月、最長4.5年）。



沖縄地方交通審議会会長(右)から局長へ最低賃金の答申



公正取引委員会
マスコットキャラクター「どっきん」

「独占禁止法教室」 学生向け ～出前授業～

公正取引室では、実務経験を積んだ職員を講師として中学校、高等学校、大学の授業に派遣し、公正取引委員会の役割、独占禁止法の内容等を分かりやすく説明しています。

◆授業内容（例えば中学校の場合）

- キーワードを学習
市場経済、競争、独占、カルテルなどのキーワードを分かりやすく説明します。
- 競争の必要性を学習
学生が企業の立場になってライバル企業と販売競争を行い、競争の必要性を学ぶシミュレーションゲームを行います。
- 模擬立入検査・模擬事情聴取を体験
公正取引委員会の立入検査や事情聴取のデモンストレーションを行います。

◆県内の開催校

○平成26年度開催校は次のとおりです。

中学校	糸満中学校(糸満市)、大里中学校(南城市)、沖縄尚学高等学校附属中学校(那覇市)、桑江中学校(北谷町)、大宮中学校(名護市)
高等学校	宮古高等学校(宮古島市)
大学	琉球大学(西原町)



独占禁止法教室の様子

◆申込要領

- 下記「お問合せ先」までお気軽に御連絡ください。
- ※開催日時、授業内容等については調整いたします。

公正取引室では、出前授業のほかにも消費者を対象としたセミナー、商工会議所や商工会との懇談会、事業者団体等を対象とした独占禁止法、下請法などの説明会を随時開催しています。どうぞお気軽にお問合わせください。



商工会との懇談会の様子



下請法基礎講習会の様子



<http://www.jftc.go.jp/kids/index.html>

【お問合せ先】

総務部公正取引室 総務係

☎098-866-0049（直通）

その手続きは大丈夫ですか？

防犯チェックシート

こんなこと言われてませんか？

- ☐ 必ずもうかる・当選番号を教える
- ☐ 情報料を支払って下さい
- ☐ 保険料の還付があります
- ☐ 高く買い取るので名義だけ貸して欲しい
- ☐ サイト利用料金が未納・訴訟に移行する
- ☐ レターパック・宅配便で現金を送って



このような電話やメールは、ほとんど詐欺です！
すぐに110番通報若しくは最寄りの警察署へ連絡してください！

内閣府沖縄総合事務局・沖縄県銀行協会・沖縄県警察
警察からの指導に基づいて実施しています。



！ 詐欺に注意！

犯人がよく使うキーワード

現金を送れ	レターパック	必ず儲かる
振り込め	裁判になる	損害賠償
受取りにいく	警察沙汰になる	誰にも言うな
家族に迷惑がかかる	逮捕される	宅配便

こんな電話はすべて詐欺です！



沖縄総合事務局

<http://www.ogb.go.jp/>

広報誌【群星】に対する「皆様の声」をお待ちしています。

平成26年度における本誌の原材料調達・印刷・流通・廃棄に伴うCO₂排出量約8.1t(211g/1冊)
は、沖縄県内事業者が創出した国内クレジット(排出権)でカーボン・オフセットいたします。

